【北海道佐呂間町】

校務ＤＸ計画

　文部科学省「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務の情報化の在り方に関する専門家会議提言」に基づく次世代の校務デジタル化に向け、文部科学省が公表した「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」に示されている、教育委員会及び学校が教育ＤＸを推進する際に取り込むことが望ましい項目を実現するため、次に掲げる事項を重点的に推進する。

1.　校務系及び学習系ネットワークの統合

現在、教育ネットワークを児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系」の２つに分離し、インターネット経由等から児童生徒の個人情報等にアクセスできない構成としている。そのため、校務用と学習用それぞれ端末を用意し、校務用端末は持ち出しを禁止している。今後、教職員の働きやすさの向上と教育活動の高度化を目指し、１台の教職員用端末で２つのネットワーク（校務系と学習系）を切り替えて利用できるようゼロトラストセキュリティの考え方に基づき適切にセキュリティを確保しつつ、校務系と学習系ネットワークの統合について検討を進める。

2.　校務支援システムのクラウド化

　令和２年度より校務支援システムを導入し、校務情報化や全道統一システムを導入することにより教職員の人事異動に伴う負担軽減を図っている。しかし、現行のシステムはオンプレミス型で運用しており、学習系で生成されたデータと校務支援システムに蓄積された校務系データの連携が困難であること、教室や自宅、出張先で校務処理ができないことなどの課題がある。

これらの課題について、教職員の働き方改革を推進するために、どの環境からでもアクセス可能となるよう既存システムへのインターネット接続口の追加の検討を行う。

3.　次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

前述２と合わせて、校務の効率化や授業の質の改善を図るため、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データ、MEXCBT等の教育行政データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務系データ等、様々な教育データを自動席に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツール（データ連携基盤ダッシュボード）の導入やセキュアな環境下での校務における生成ＡＩの活用に向けた検討を行う。

4.　ＦＡＸ・押印の原則廃止

　令和５年１２月に文部科学省が公表した「ＧＩＧＡスクール構想の下での校務ＤＸ化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、一部でまだ保護者・外部とのやり取りで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務ＤＸを大きく阻害していることが指摘されていることから、災害や教育ネットワークの不具合時などＦＡＸの方が電子メール等より効率的な場合を除き、ＦＡＸ・押印の原則廃止に向けて、各種関係機関及び学校と関わりのある事業者に対して、教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。